

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0170503874-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0170503874-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから地下鉄駅までは徒歩5分程で立地が良く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も完備し、周囲は商店街で病院も多い。街中でありながら公園や神社などもあり、普段の散歩、お祭り、催事、出店見物、お正月の初詣なども季節感を味わえる環境にある。ハイエースやノアといった車輛を有し月1回の頻度で利用者全員で外出し、桜や紅葉を観賞したり工場見学を楽しんだりバイキングレストラン等で外食を堪能している。開設から8年目に入り町内会との交流も年々深まっており、散歩時に住民から声をかけられることも多くなっている。町内会と合同で行っている夏の交流会は町内の一人暮らしの高齢者も参加し、毎年の定着したイベントになっている。町内会役員や住民、家族や消防署員が参加する運営推進会議は活発な意見交換や要望が聞かれ、認知症に関する研修等も行っている。中の島は防火のモデル地区になっており、ホームの消防訓練には多くの町内会役員が積極的に参加している。町内会の緊急連絡網には「みのり中の島」も含まれており、近隣住民から一時避難場所の提供があるなど、災害時の協力体制もできている。また馴染みの方々が来訪しやすい雰囲気づくりを常に心がけており、家族や親戚、知人や懐かしい友人などの来訪も多い。職員育成のための法人の教育システムは整っており、新入社員3か月研修、1年研修、2年研修と段階的に行っている。役職者に対する研修も定期的に行われている。また虐待防止や身体拘束をしないケア等、数々の外部研修も職員が随時参加しており、入居者対応における教育も充実している。職員は毎年個人目標を掲げ、事業所の理念、事業所目標とともに目標達成に向けて常に振り返り行動し、入居者へのよりよいケアの実現に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市中心部からほど近い、地下鉄中の島駅から徒歩5分ほどの便利な場所にあるグループホームである。建物は3階建てで、1階が同一法人が経営するデイサービス、2～3階が2ユニットのグループホームとなっている。近くにはスーパーや交番、中学校、神社、公園などがあり、住環境が整っている。室内は共用空間が広々としており、キッチンやスタッフの事務スペースから共用空間全体を見渡すことができる。また、浴室やトイレも広く使いやすく造られている。1階に下りるエレベーターがあるが、階段がなだらかで四角いせん状のため、利用者も比較的簡単に上り下りができる。町内会との交流が活発で、地域の高齢者も参加する交流会が毎年の恒例の行事となっている。運営推進会議には家族の参加も多く、計画的にテーマを定め、意見交換がなされている。職員が利用者や来客者に丁寧に接する姿が見られ、接遇やプライバシーの尊重などの教育が行き届いている。日常的な外出の他、外出行事が非常に多く、ほぼ毎月、外食も兼ねた外出行事があり、景勝地や工場見学、自然とふれあう施設など様々な場所を見つけて、全員で外出しており、利用者のいきいきとした生活につながっている。各種のマニュアルや契約書類、職員研修などの運営法人の支援体制も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(すずらん館アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
		3. たまにある		3. たまに
		4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない		4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
		1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○		
		1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を朝の合同申し送り時に定期的に唱和し、職員の意識を高めることで実践につなげている。	5年前に見直した事業所独自の理念の中に「地域にとけこみ～」という文言を加え、地域密着型サービスの理念として確立している。理念はパンフレットや共用部分に掲げ、月曜日の朝礼で唱和するなどして職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事にできる限り参加し、地域活動を理解することで、利用者が地域とつながりながら暮らしているよう日常的に交流している。	毎年夏には、町内会と合同で交流会を開催している。また、公園の清掃や花壇づくり、神社のお祭りなどにも利用者と共に参加している。合唱やメイクアップ、ひょっとこ踊りなどのボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事参加や交流会、消防訓練の協力のお願など、認知症の人への理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には活動報告でサービス等の状況を報告し、参加者と意見を交わしながら、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月毎に開催しており、地域包括支援センター職員、町内会長、福祉部長、複数の家族の参加を得ている。外部評価や地域交流、防災、成年後見人制度など、毎回テーマを設定して意見交換している。また、議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当者には、書類提出の際に事業所の実績やサービスの取り組みを伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加があり、意見をj得ている。また、何かあれば市に直接出向き、相談や報告を行っている。市や区の管理者会議に出席し行政担当者や情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や報告等で、職員全体が拘束に関する知識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束のマニュアルが整備され、職員は身体拘束に関する外部研修にも参加し、理解を深めている。2階と3階の出入り口は施錠せず、自由に出入りができる。1階の玄関はオートロックで施錠されているが、呼び鈴でユニットにつながり、遠隔操作で開錠できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止推進研修会に参加した職員は持ち帰った資料を職員全体で回覧し、情報共有していると共に防止に努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は解約時の事も含み充分時間をかけ説明している。改定がある場合や不安や疑問点については都度説明をし、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の想いは常に傾聴し、家族が来訪時には要望や意見を尋ねている。できる限り意見が言える環境を整え運営に反映させている。	家族が頻繁に来訪し、運営推進会議にも多くの家族が参加し意見をj得ている。家族からの意見は家族対応連絡票に記載し、共有している。毎月、みのり通信や個別のお便りで家族に利用者の様子を詳しく伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と定期的に面談をする機会を設けている。また社内グループウェアで自由に意見が述べられるようになっている。	ユニット会議を3か月毎に行っており、カンファレンス時のショートミーティングや毎日の申し送りでも職員が活発に意見交換している。年2回以上、管理者と職員の面談も行っている。職員はみのり通信やお便りづくり、行事、献立作成、飾り付けなどを担当して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の努力や実績が繁栄される。また事業所ごとに決算手当の査定があり職員のやる気に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として内部研修や外部研修の参加を奨励し、働きながらトレーニングができるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議参加や外部研修に参加交流することでサービス向上に努めている。また同業者が取り扱っている備品や品質の良いおむつ等の購入などで交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では本人の抱えている不安、要望などを聞いている。入居後も信頼関係が築けるよう会話の時間をつくり、安心を確保する関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族が抱えている問題や不安なことを聴いている。来訪時には意見や要望などがなければ都度尋ね関係づくりに努めている。また、必要時は面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望や意見は都度聞き、他のサービス利用も視野に入れ、その時その時に沿った支援をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は一緒に参加してもらい、助け合う相互関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に相談し協力し合うことで、本人を共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などがいつでも来訪しやすいような雰囲気、環境づくりに努めている。電話の問い合わせも不快のないような対応を心がけており、関係が途切れないよう職員全体で支援している。	友人や知人が来訪する方も多くおり、電話や手紙のやりとりも支援している。家族と一緒に墓参りや神社、美容院などに出かける方もいる。ミシンの裁縫を継続している利用者もおり、趣味の継続をケアプランにも組み込んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や生活などを考慮し、同じ作業ができるよう役割分担を行い、支え合う関係づくりに努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は継続して相談の受付は行っている事を伝えており、都度対応している。退去後のお見舞いなども行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の話しを傾聴する事はもちろん、利用者同士での談話の中にも耳を傾け、希望や意向の把握に努めている。	思いや意向を言葉で表現できる方は少ないが、難しい場合も家族からの情報や表情、しぐさなどから思いを把握している。利用開始時にセンター方式のアセスメントを作成しているが情報の追加や蓄積は十分といえない。	現在、サービスを提供する中で得られた利用者の情報を記入するノートを作成を始めており、その情報を定期的にアセスメントシートに落とし込むことで情報を充実することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のセンター方式での情報をもとに、入居後も家族との会話や面談から情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にその日の様子、心身状態などを詳細に記載し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者の意見を取り込み、現状に即した介護計画をスタッフ間で話し合い作成している。	介護計画は3か月毎に見直し作成している。見直しの際は担当者による評価をベースに検討会議を行い、家族の意見も得て見直しを行っている。日々のケース記録に計画目標を載せ、目標に沿った支援と記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間連絡帳、医療関係記録、日々のケース記録、申し送り時の話し合いなどで、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、入居者の買い物スタッフが代行している。家族の希望がある時には、食事は居家で一緒に摂れるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れにより中学生と触れ合ったり、町内交流会で地域住民と交流できるように支援している。また消防職員の指導の下避難訓練に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は本人や家族の希望を大切に、病院受診か訪問診療かを選択してもらい対応している。	協力医療機関による月2回の往診がある。その他の通院は家族対応としているが、利用者の様子を伝えるため、時には同行したり、医師への手紙を作成したりしている。受診内容は訪問診療対応表やノートに記載し、共有している。	

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回社内の看護師対応で健康チェックをしており、看護師には、訪問診療や受診時の情報も伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引く事によるADLの低下を防ぐため、医師や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換や相談等を行い短期間で退院できるよう支援している。また、戻ってすぐ対応ができるように準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を定めており、できる限り早い段階で、家族、医師、看護師などの関係者と話し合いより良い方法を提案している。	利用開始時に「重度化(看取り)に関する指針」を利用者および家族に示し、事業所の対応可能な範囲や方針を説明し、同意書を交わしている。過去に看取りまで至ったケースはないが、体制を整えるべく準備を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は札幌市消防局の普通救命講習を受講している。また、社内の看護師より緊急時の対応を受けて実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も入っている緊急連絡先を活用し、町内会参加のもとで昼夜両面で避難訓練をしている。運営推進会議においても地域との協力体制を話し合っている。また、天災時の携帯食を常備し避難場所についても話し合っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防や地域の協力を得て実施しており、地域の方とは具体的な協力方法や連絡方法も話し合っている。災害時の備蓄品も用意されている。一方、職員の救急救命訓練の受講は十分といえない。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を計画的に受講できるよう取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を心がけている。日常の様子を記載したケース記録も他者が見えないように配慮している。	名前の呼び方は苗字に「さん」付けとし、丁寧な言葉かけで対応している。人生の先輩として、そぐわない言葉遣いや対応がある時は注意している。個人情報書類などは適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろからコミュニケーションを多くとる事で、思いや希望を自由に表わし自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく暮らせるよう個々のペースを大切に、行動もできる限り制限せず柔軟な対応を心がけている。また、得意なことや関心をもっていることが行えるような場面づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室に行く事も可能で、訪問理美容は希望を尋ね対応している。個人の好みを尊重しながら毎日の洋服選びなども支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食事の下ごしらえや後片付けを職員と一緒にしている。誕生会メニューは本人の好みを聞き、入居前によく食べていた物なども組み込みながらメニュー作りをしている。	職員は利用者の好みを入れて、メニューをユニット毎に作り提供している。誕生日には職員と2人で外食にするか、また好きな料理を作るかを選んでもらっている。新鮮な食材に彩りを添え、フルコースの趣向も工夫して食事を楽しみ、職員も食卓を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、摂取量が少ない利用者には声かけはもちろん、時間を置いて少量ずつ提供したり他の物に変えるなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声かけをし、1人で出来ない利用者は職員が一部介助したり、義歯は洗浄剤で殺菌し常に清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録し、間隔が空いている場合や排泄の訴えがない利用者には、本人に合った時間配分で定期的に声かけをし、自立にむけた支援を行っている。	利用者の排泄状況を観察しながらパターンを把握し、誘導が必要な場合は周囲に分からないように小声で確認して行っている。夜間もできるだけ、トイレでの排泄を支援し、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけと共に、毎朝の牛乳摂取や繊維物が多い食材を使用したメニューなど便秘の予防に努めている。また、体操時には腸を刺激できるような運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	様々な入浴剤を用意し入浴が楽しくなるよう支援している。体調や希望に合わせてながら時間や曜日も臨機応変に対応している。	午後の時間帯に希望や体調を見て週2回の入浴を支援し、入浴を拒む時も声かけや職員を代えるなどの工夫で実施できている。状態に応じて職員の2人介助で安全に湯舟に入れるように対応している。利用者は職員と早口言葉や歌を口ずさんで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣と疲労状態に合わせて日中も疲れないう程度で休息の声かけや介助をしている。また、日中の活動量を増やし夜間はぐっすり眠る事ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に、薬の目的や副作用について全職員が情報の共有をしている。誤薬防止のためと薬者以外の職員の確認も行っている。新たな薬が処方になった時は症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好や楽しみごとを行えるよう支援したり、気分転換ができるよう散歩や歌をうたったり、書き物をするなどの支援をしている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は近隣の散歩や買い物等の支援を日常的にしている。月に1回は全員で外出し風景や外食を楽しめるよう支援している。希望者は町内会のバス旅行にもスタッフ同行で参加している。	天候を見て周辺の散歩や買物に出かけている。月に1回は外食を兼ねた行事を計画し、カラオケやボーリングを楽しみ、さとらんど、コカ・コーラ工場見学、旭山公園など、多彩な外出を楽しんでいる。また家族と出かけることもあり、外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に持参した財布や所持金は支障が無い限り本人が管理しており、外出時に買い物があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話を取り次ぐことはもちろん、希望時に時間帯を考慮しつつ、電話の取次ぎをしている。又、希望時にはスタッフが手紙を預かりポストまで出しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や共同スペースに、季節感を感じられるような飾り付けを行っている。どの利用者もリビングで過ごせるようソファや椅子があり、テレビを見たり談笑ができるようになっている。	食卓テーブルとソファ席を分け、畳の小上がりがある共用空間は広々としており、全体的に落ち着いた寛げる場になっている。壁には行事の写真や利用者と一緒に作った季節の作品、装飾品がほどよく飾ってある。各ユニットに設置してある運動器具や、らせん状の階段昇降は運動になり、自立につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファで気の合う利用者同士が座れるように配慮したり、静かに過ごしたい時は景色を眺めたり、新聞を読んで過ごしたりできるようそれぞれの居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんでいる家具を置いたり、家族の写真を飾ったり、本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫をしている。希望があれば居室の出入口に暖簾を下げ暖かみを演出している。	表札の代わりに、取り付けの小さな箱に好みの縫いぐるみを入れて自室が分かるように工夫されている。タンスなどの馴染みの家具や小物類、縫いぐるみなどが持ち込まれ、家族の写真や装飾などを飾り、心地よい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置。居室の出入口にはボックスがあり、自室だとわかるように目印に好きな人形等を入れている。洗面台には個別のスペースがあり自分の歯磨きセットがわかるように配置されている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すずらん館 ユニット」に同じ
-----------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503874-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503874-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を朝の合同申し送り時に定期的に唱和し、職員の意識を高めることで実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事にできる限り参加し、地域活動を理解することで、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事参加や交流会、消防訓練の協力のお願など、認知症の人への理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には活動報告でサービス等の状況を報告し、参加者と意見を交わしながら、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当者には、書類提出の際に事業所の実績やサービスの取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や報告等で、職員全体が拘束に関する知識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止推進研修会に参加した職員は持ち帰った資料を職員全体で回覧し、情報共有していると共に防止に努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は解約時の事も含み充分時間をかけ説明している。改定がある場合や不安や疑問点については都度説明をし、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の想いは常に傾聴し、家族が来訪時には要望や意見を尋ねている。できる限り意見が言える環境を整え運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と定期的に面談をする機会を設けている。また社内グループウェアで自由に意見が述べられるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の努力や実績が繁栄される。また事業所ごとに決算手当の査定があり職員のやる気に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として内部研修や外部研修の参加を奨励し、働きながらトレーニングができるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議参加や外部研修に参加交流することでサービス向上に努めている。また同業者が取り扱っている備品や品質の良いおむつ等の購入などで交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から家族も交え、本人の現在の心境や不安な気持ち等を詳細に尋ね、入居後、出来るだけ係る時間を多くして安心して生活できるような支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族が抱えている問題や不安なことを聴いている。来訪時には意見や要望などがなければ都度尋ね関係づくりに努めている。また、必要時は面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を最大限に配慮し、ホームの支援のみならず、他のサービス利用も視野に入れ、本人に必要な支援が受けられるよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの能力や得意分野を生かし発揮しながら、時にお互いが協力し助け合える関係づくりにつとめている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に密に情報を共有しながら信頼関係を築き、相談や要望に対応し、本人を支援していくよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などがいつでも来訪しやすいような雰囲気、環境づくりに努めている。電話の問い合わせも不快のないような対応を心がけており、関係が途切れないよう職員全体で支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協力し合い同じ作業をする等の支えあう関係作りを築きながら、それぞれの個性や生活のリズムや関係性を考慮するように努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のためにサービスが終了した利用者へのお見舞いなども行ない、家族にはいつでも相談して貰う様声かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りの際に一人ひとりの状態を報告し話し合い、出来る限り本人の意向に沿えるように努めている。生活状態を見ながら介護計画の見直しを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際家族から記入してもらったセンター方式にて情報の把握をし、入居後の会話や仕草・行動からも暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を観察・見守り、支援等を行い一人ひとりの1日をケース記録に記載したり、カンファレンスなどで情報交換を行い、スタッフ全員が把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には家族からの情報や意向、本人の希望を尋ね、介護計画を作成をしている。その後3ヶ月ごとにカンファレンスを行い家族の要望やスタッフ全員の意見を反映し具体的な短期目標を掲げた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に1日の生活の様子を記載しており、食事量や水分量、排泄、身体や体調の変化、行動の様子などを職員間で共有し、話し合った上で今後のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、入居者の買い物スタッフが代行している。家族の希望がある時には、食事は居室で一緒に摂れるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れにより中学生と触れ合ったり、町内交流会で地域住民と交流できるように支援している。また消防職員の指導の下避難訓練に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、受診や提携クリニックによる訪問診療などで対応している。提携クリニックによる訪問診療は月2回あり、緊急時に電話連絡し指示を受けたり、緊急往診の対応ができる体制になっている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回社内の看護師対応で健康チェックをしており、看護師には、訪問診療や受診時の情報も伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員がお見舞いに行き現状を把握し、看護師やソーシャルワーカーから情報収集し家族と連携を取りながら早期退院に繋がるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を定めており、できる限り早い段階で、家族、医師、看護師などの関係者と話し合いより良い方法を提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に研修委員会があり、職員は札幌市消防局による普通救命講習を受講している。また、社内の看護師に講師になってもらい緊急対応研修を受け実践力を鍛えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も入っている災害時連絡先を活用し、町内会も参加の上で昼夜両面の避難訓練を行なっている。運営推進会議でも地域との協力体制や災害時の避難場所についても話し合っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、個々の対応に努めている。ケース記録等は他者が見えないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と積極的にコミュニケーションをとることにより、想いや意志をくみ取り、自身の意思の表出を導けるような声掛けや配慮を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や運動など、日々の入居者の希望や体調を考慮し、意思に沿った対応が出来るよう努めている。また、趣味や特技を各々のペースに合わせて生かしていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人の好みの髪型にしている。洋服の合わせ方の相談にのったり、外出時や希望時にはお化粧品やマニキュアを楽しんでもらえるよう支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食材や季節の物を取り入れた献立を立てている。時には一緒に食事の準備や後片付けをしたり、食席を共にすることで、意見や感想を聞いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量を記録し、摂取量が少ない利用者には声かけはもちろん、時間を置いて少量ずつ提供したり他の物に変えるなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけ見守りをし、介助が必要な場合は介助している。また、口腔内に異常があった時には訪問歯科に連絡をし、悪化防止に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、それぞれの排泄パターンを把握し定期的に声をかけ、トイレ誘導をしている。トイレ内では出来ない部分のみ介助し、出来るだけ自分で行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけと共に、毎朝の牛乳摂取や繊維質が多い食材を使用したメニューなど便秘の予防に努めている。また体操や足の運動が毎日出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望や好みのお湯の温度を聞いたり、入浴剤を選んで貰ったり入浴が楽しくなる工夫をしている。体調の変化に応じて入浴日を変更したり、清拭にするなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣と疲労状態に合わせた休息の声かけや臥床介助をしている。また、日中の活動量を増やし夜間はぐっすり眠る事ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬は説明書を読み、目的や副作用について確認している。受診対応や訪問診療対応ノートを活用し、薬の変更事項は全員で共有し、服薬後の症状を継続して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事や、掃除、洗濯物量み等の役割支援や、ぬりえ、合唱、DVD鑑賞、おやつ作り、ゲーム等の楽しみごとへの支援に努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は近隣の散歩や買い物等の支援を日常的にしている。月に1回は全員で外出し風景や外食を楽しめるよう支援している。希望者は町内会のバス旅行にもスタッフ同行で参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をある程度自分で管理している利用者や、スタッフが買い物に同行し支払いをさりげなく見守る等、利用者の状態に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話を取り次ぐことはもちろん、希望時に時間帯を考慮しつつ、電話の取次ぎをしている。又、希望時にはスタッフが手紙を預かりポストまで出しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは誰も見ていない時や興味のありそうな番組がない時は消し、付けっぱなしにならないよう心がけている。民謡や懐メロ等利用者が好む番組は録画し日中にかけている。定期的にホールの温度・湿度をチェックし、いつも快適な状態を保てるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファで気の合う利用者同士が座れるように配慮したり、静かに過ごしたい時は景色を眺めたり、新聞を読んで過ごしたりできるようにそれぞれの居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家財道具を持ってきてもらい、家族と相談しながらなるべく馴染みのある雰囲気与生活してもらえよう環境作りに努めている。状況に応じて配置を変えたり危険が無いように気をつけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置。入浴時には滑り止めマットや状態に応じて、シャワーチェアを使用している。又、車椅子の利用者が自走できるよう通りやすいスペースを確保し、テーブル等の配置変更の時も配慮している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり中の島

作成日：平成 25年 11月 22日

市町村受理日：平成 25年 11月 26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署員や町内の方々との立ち会いのもと消防訓練は定期的に行っている。災害に関しても備蓄品や避難場所も確保し職員間にも周知している。しかし救急救命訓練の受講は勤務年数によってバラつきがあり、全く受講していない職員もいる。	全職員が普通救命講習を受講し、正しい救命法を学ぶ。	札幌市消防局による、普通救命講習を全職員が受講できるよう手配する。	1年
2	23	介護サービス計画書の見直し時、センター方式を利用しているが、アセスメントシートの追加や見直しが充分ではない。ノートに情報や言動を記入していることも試みてはいるが、シートに落とし込むまでは至っていないなど、入居者個々にアセスメントの方法が違う。	定期的に情報をアセスメントシートに落とし込むことで情報を充実させ、それを基にモニタリングを行い、より現在の状態に沿ったケアプランを導き出す。	入居時の基本情報を記載したセンター方式や状態を都度記したノート等を利用し、現状に沿ったアセスメントシートを作成する。シートは定期的に追加事項を記入していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。